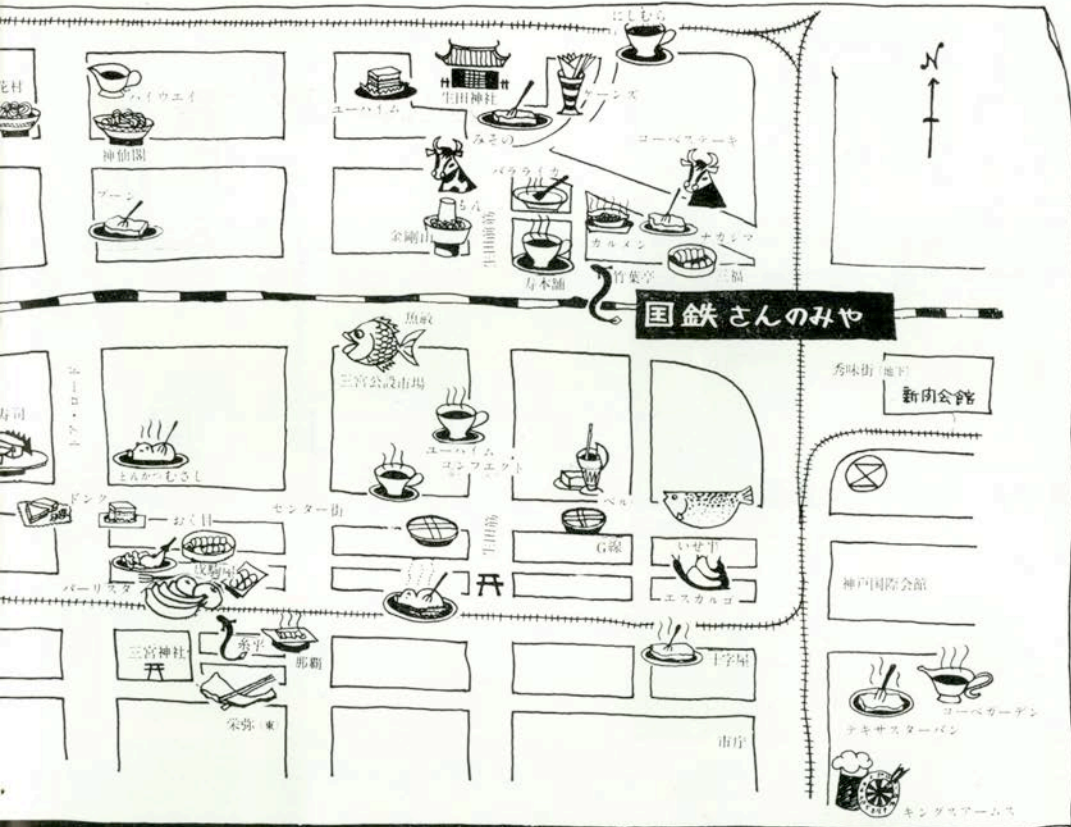


神戸らまいもの地図



うまいもの店
ごあんない

グリル

ブ
ーン

トア・ロード
TEL ③ 15114

英国式パー・レストラン

キングスアームス

市庁舎向い浜側
TEL ② 3774

グリル

コウベステーキ

阪急 三宮山側
TEL ③ 258112

ロシア料理

バラライカ

生田筋東入る
TEL ③ 7919

スペイン料理

カルメン

三宮阪急西口「寿」北上る
小宴会承り ③ 2228

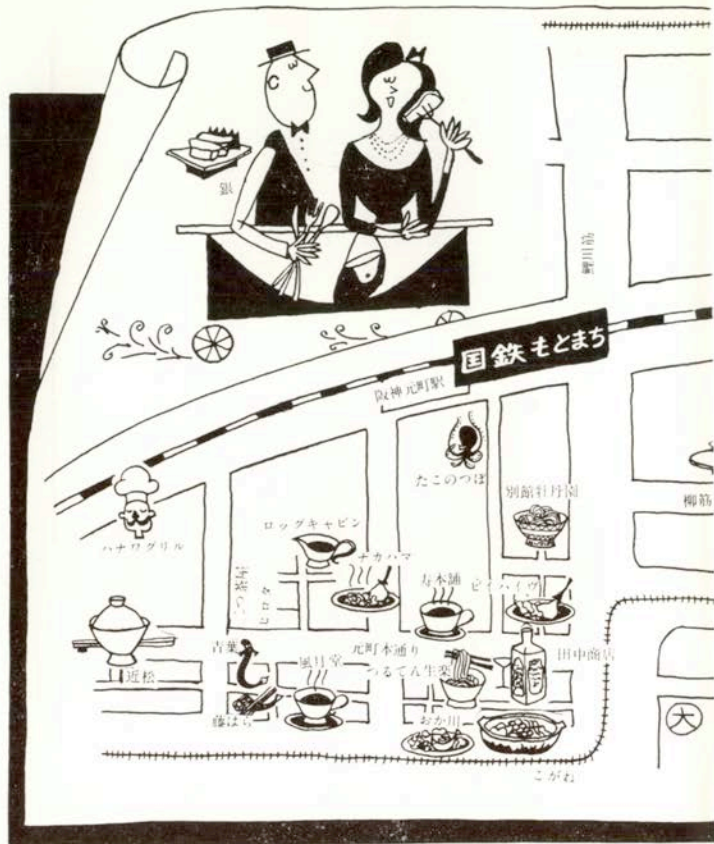
江 戸 前
栄 壽 司

三宮三・柳筋
TEL ③ 0069

とんかつ

武 藏

三宮センター街
TEL ③ 2296



私のランチタイム

加納ヒロシ（会社員）

サラリーマンにとって、昼食時ほどたのしいものはない。
 正午を告げる報せがあと五分ともなれば勝手なもの、腹の虫の方が先に「時」を知らせてくれる。そうすると「さて、今日は何を食べてやろうかな？」といきつけの食堂キングの献立表が目につく。
 僕が毎日通っている「キング食堂」は、センター街星電社の裏通り、そごう寄り二つ目証券会社の細い筋に入った右側にある清潔でかつ家庭的な雰囲気のお店だ。
 BGやサラリーマンなど独身組

には人気がある。もちろん値段段がすべてに安く、それでいて家庭料理的な味つけがイカス。魚の煮付け、フライのもの、ヤサイいため、みそ汁、そして季節のヤサイや魚。と材料も豊富な方がいい。暑い内はもつぱら冷やヤッコと、焼き魚にご飯中（二十円）の一辺倒。時々、スタミナをつけるためエビのフライや魚のフライ類をとることもある。

冬はカス汁（二十円）で寒さを凌ぎ、二日酔いで食欲不振のときには、おかゆと梅干、つけものでアツサリ片づける。とにかく家で食事するのと少しも変わらないのがこの店の魅力。下宿の身の僕には我が家も同然。気に入っている。

壽司

三福

三宮阪急東山側
TEL③2456

ステーキ

みその

神戸生田神社前
東京田村町3

西洋御料理
シヤブ、シヤブ
オイル焼

もん

ハナワグリル

元町5丁目
（モダン寺高架浜側）
TEL④六九四二・五九一九

朝鮮料理

金剛山

神戸・三宮・生田神社前
TEL代③5561

バーベキュー

コーベガーデン

市役所前東入る
TEL②4400

神戸一の総合レストラン
パウリスタ

三宮トアロード
TEL③1362

鰻・蒲焼・日本料理

竹葉亭

三宮阪急西隣
TEL③1120
1140

神戸うまいもん巡礼²

赤尾 兜子



西洋料理の巻

この雑誌が出るころにはもう秋風がたちははじめていることだろう。『天高く馬肥ゆる』とはポピュラーだが、『馬とならんで牛』その天下一品の牛が兵庫県にいる。その肉を神戸肉という。但馬牛の神戸肉、私が説明するまでもない。その牛をかんとんに見たい人は、須磨海岸にある市立神戸水族館西に二本水の角をたてている。但馬牛のりっぱな種牛の像を拝見されればほほ察しがつくであろうただひとつ残念なことは、『コウベビーフ』というて外人からすぐ珍重がられた神戸肉が、何でも話に聞くと、このごろの東京ではPRのうまい松坂肉に押しやられ、松坂肉の方が値が高いということである。もともと但馬牛の子牛を移出してそれを育てている松坂の牛が、有名となつては、ヒサシを借して主家（おもや）をとられるというタトエそのままで、はなはだ気分がよくないというような話はさておいても、ともかく神戸肉は掛値なしに美味である。

ところで、肉を材料にした料理にもいろいろあるが『西洋料理』それもビフテキ、もうこれだけ食べれば満点という店を紹介しよう。

生田区のトア、ロードを国鉄のガードを北へ越し、歩いて数分、その東側にとんとんと二階へあがるちよつと神戸には珍らしい、ちいさいがきれいにまとったグリルがある。看板は横文字でBOONZ（ブーン）とある。

この店のTポーンステーキは量において、味においてすばらしい。Tポーンという名がついたのは、牛の後背骨がT字型になっているところへロースとヘレ肉の両方がついているからで、この骨がついたままで野菜をあらって食卓に出してくる。なにしろこの肉の重さは骨つきで三〇匁というしろもの。だからかなり大食を自認する人でも、満足してしまふ。しかも油っこいロースとあっさりしたヘレを右、左と交互に食べてみる楽しさもあり、私もいろいろとステーキを食べ歩いたが、やはりこのステーキは、大将格の貫録十分である。もともとこ



ステーキの王様……Tボーン・ステーキ 1400円

のステーキは三人前なので、ひとりでは無理して食べる必要はなく、アベックや親子づれで分けあうのもよろしい。ステーキには常識なっている焼き方とつまり炭火焼かフエンス(柵)焼きか、鉄板焼きか、また焼き方の深度つまり中焼か、すこしよく焼くか、よく焼か、すこしなま焼か、なま焼か、この五つの焼き方の指定をコックにすれば、そのお好みに応じてくれる。森繁久弥は大の牛肉好きとみえて、いちど神戸肉をそんぶんに味いたたいと聞いていたと人づてに聞いているので、機会があれば、ぜひこれを口にさせたい。値段は一四〇〇円、ついでに加えておくと、このステーキに使う良肉は、すぐ手に入らないので、二、三日前に店へ電話して予約しておく

よい。

この店のマスターは細田文平さん。といって知る人はすくなからうが、戦前日本郵船に乗り、司厨員をふりだしに、横浜のニュー・グランドホテルからオリエンタル・ホテルで二十年の腕をみがいた人。BOONZという店名も、彼の愛称「ブン」から来ている。三カ国語をしゃべり、一見西部劇に出てくるテキサス快男児をおもわせるが、料理の話になるとまったくくわしい。いまはやりのパーベキューはフランス語でひげ尾のことで、日本語で頭からしっぽまでというのとおなじ、つまり何でも食べてしまおうところから来たのだとその語源にまでいたる。だからこの店、ステーキはおるか西洋料理のいろいろなメニューが二五〇種もある。とても紹介しているヒマがない。

とりあえず、ステーキでは肉で最高級のサーロイステーキ(四五〇円)デリケートな味がするヘレミニオン(四五〇円)と串焼き(二五〇円)と乳牛のオスの小牛のチーズ焼(ドイツ料理名でウインナシュニツル(二五〇円)をあげておく。あとは、店を訪ねる皆さんにおもいおもいに美味をさがしだして頂きたい



(写真はBOONZマスター細田文平さん)

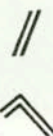
秋のお買物は
 ハイ・センスの神戸で
 楽しいくらしは
 神戸の
 トップ・ショップから



ハイセンス
 秋の
 おくりもの



元町2丁目



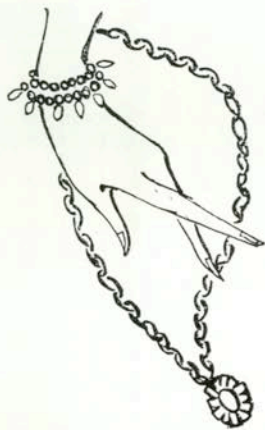
③ 2996



昔げいむ亭

コスチューム
 アクセサリーの店

神戸店・トアロード ③二二九三
 大阪店・心斎橋ロビー(211)一〇四四





toiletarbicles & accessory 化粧品 **絹屋**
 アクセサリー
 西店・三宮御蔭 3-5778
 本店・甲南本通 85-0250



婦人帽子 **マキシソ**

神戸・トア・ロード
 ③6711-3

世界の洋酒の店

BARRAFUBACHI

元町2丁目 TEL(0)5748



特選
 ハンドバック
 専門の店



シラサ
 ③0813
 元町2



ハイセンスの紳士服で
最高のおしゃれを
元町四丁目

三恵洋服店

TEL④7290

YE AULD SHIRT SHOPPE

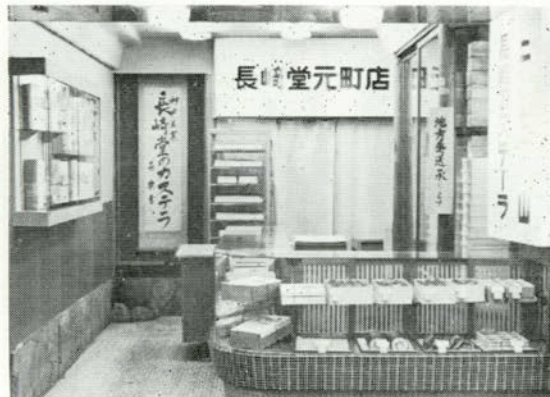


よろず御襖衣仕立處

神戸シャツ

神戸大丸前 TEL③2168

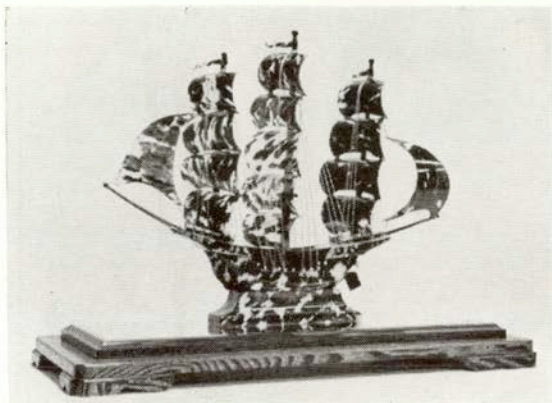
毛皮の店
ウエダ
元町2丁目③0686



みんなに贈って喜ばれる
風味豊かなカステラ!
<元町6丁目>

長崎堂本店

本店7-4402元町4-4130
神戸新聞会館秀品店・阪急



センスあふれる
べつ甲の専門店
元町一丁目

太田鼈甲店

TEL ③ 6195

新しいセンス、フランス調の
ヘヤースタイル

美容室

あきら

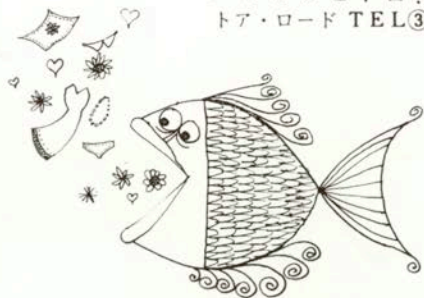
西野 明

三宮本通り TEL③4461・6458

KOBE

SUGIYA

ハンカチと下着の店
トア・ロード TEL③3436



高級紳士服専門店

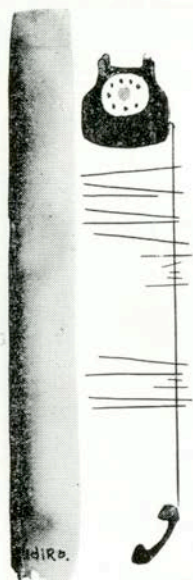
神戸テーラー

オーダーメイド・イメージ
オーダー・レディメイド
生田区北長狭通2
(省線高架通50)③2817

サービス本位

陳舜臣

え・松本宏



私は蒐集家である。子供のころのベッタン集めに端を発して、昆虫、植物、切手など、ものを集めることなら一と通りのことはやってきた。

湯水のごと金をつかえば、なんでも集まるにきまっている。私は貧乏しているから—そんなことはできない。また、たとえ億万長者であっても、私はそんなことをしないだろう。コレクション・マニアとして、易きにつくことは外道なのだから。

金力にものを言わせて、なんでもかき集める手合いも私は軽蔑する。蒐集には苦勞が伴わなければならない。吉田茂のはいた下駄とか、ヒットラーの髭だとかいったがらくたを、タダで、しかし苦勞して集める男のほうがよくぞ蒐集家魂に徹している。山本富士子をはなをかんだハンカチというのを、私は三十円でその男からわけてもらったことがあるズバリ申しあげる。安い代金でモノを仕入れるのが、蒐集家の真骨頂なのだ。ずいぶん値打

ちのある品を、私は安く手に入れている。それには、コツというものがある。

ところが、どんな技術にしろ、あまりにも技巧に走りすぎると、失敗することがある。心すべきことだ。後進の為、私の失敗談を記して、参考に供しようと思う。

私は美術品が好きだ。が、前述のように、経済的理由及び蒐集家としての信念から、金を使わぬたてまえなので、あまり良いものは集まらない。美術品はとかく金がかかるものだ。しかし、美術品の鑑定にかけては、自分でも一流だとうぬぼれている。

神戸の某所（はつきり書けば、その地区に具眼の士がいなかったことになって、さしきわりがあると思うから地名は伏せる）で、とある喫茶店にはいったときの話である。

店のガラス扉に、「サービス本位の店」と大書してあった。私はなにもそんな謳い文句に釣られて入ったので

はない。コーヒがのみたくなつたからにすぎない。

まずいコーヒをすすりながら、なにげなく壁にかかった油絵をみているうちに、私の手はワナワナとふるえたした。

ピサロではないか！

印象派のなかでも、私はピサロが好きだ。モネのように、なんとなく飛躍が感じられる絵よりも、誠実に描きこんだピサロの作風に好感をもつ。乏しい財布をはたいて、彼の画集をとりよせたこともあったほどだ。

壁の絵は、片側が練、互屏で、反対側に麦畑がひろがり遠くに木立ちが見える構図だった。毫もケレン味のないいかにもピサロらしく丹念に描いた風景画である。大きさは二十号か。私はその絵に心をうたれた。はじめは横写ではないかと疑った。しかし、この絵はどの画集にものっていない。もしかしたら、散逸した絶品の一つかもしれない。私は立ちあがって、仔細に絵を検討した。美術の鑑定、については、私には自信がある。ことに、ピサロにはくわしい。

——本物である。まちがいない！

手ばかりか、膝までがガクガクとふるえた。フランス美術展で見たピサロの絵が、脳裡をかすめた。色彩と光線のみごとな交響楽である、かの高名な「パリ、オペラ座通り」……そして、あたたかい「キャベツ畑のあぜ道」……。おお、ピサロ以外に、こんな絵を描ける画家がいるだろうか。

作家の特長ばかりでなく、蒐集家として、私は当然キヤンパスや絵具などにも注目して鑑定する。そのためには、そばに近づかねばならない。

そして指をふれてみる。蒐集家魂は、勃然としてわが胸にわきおこった。これを頂戴できなければ、ご先祖さまに申訳が立たない。

私は絵にふれた指を、額ぶちのうえに移した。背後に感じたのである。「ええ額ぶちや」ふりかえって、私は言う。

「よろしまっしやる」カウンターの婦人は、にこにこ顔で言った。サービス本位の店にふさわしい笑顔である。

「この額ぶち、かわつとるなあ」

「そうでっか……」

このとき、店の奥から、あまり人相のよくない若い男が出てきた。

「姉さん」と、その男はカウンターの婦人に声をかけた。「二階の雨漏り、ちゃんとなおしたで。もう用事あれへんやろ？」

「そやね」姉さんと呼ばれた女主人は、ちよつと考えてから、「絵は明日でええやろ」

私の心はびつたりとピサロに吸いつけられていたが、視線と指を、額ぶちのうえにおくことを忘れなかった。ここがコツなのだ。蒐集家はさもしくとびつくものではない。

「ええ額ぶちや」私は繰返した。「ぼくは額ぶち屋やけど、こんなええ額ぶち、最近見たことない。模様もかわつとるし」

「専門家がそない言いはるんやったらまちがいおまへんやろ」

と女主人は言った。「これほしいな」思い切って、

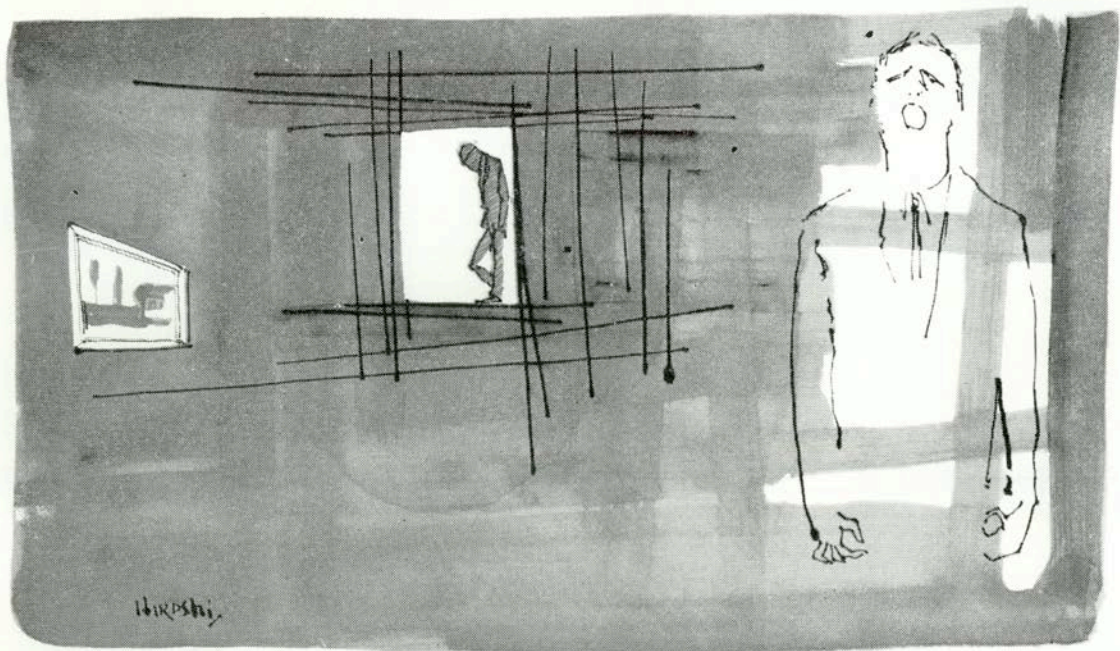
私は言った。女主人はカウンターから離れて、私のそばへやってきた。

「そやけど、これ、うちの父がフランスから買ってきた額ぶちですわね。記念のもんやさかい……」と女主人は言う。

「ぼくはこの額ぶちをモデルにして、新しい額ぶちを造りたいんや。世間をアツといわせるような額ぶちを。」

……どないです、わけてもらえまへんやろか？」

「亡くなった父の形見みたいなもんでっさかい。……うちの父は船員でしたけど、フランスへいくたびに、こんなもん買ってきてはったわ。たんとあつたけど、人にやったりなんやして、いまこれしか残ってませんわね」



「絵はたいしたことない。三文絵かきのペンキ絵みたいなもんやけど」

私は今世記の初頭にこの世を去った偉大な画家の霊に心のなかで熱烈な黙禱をささげながらそう言い放った。

「そうでっしゃろ。なんや古くさい陰気な絵でんな。そやから、新しい富士山の絵買ってきて、入れかえようと思てたところでですね」

「とにかく、この額ぶちをわけてもらいたいんや。どうです。日本の額ぶち工業の発展のために、考えてくれませんか？もちろん適当な値段で……」

相手に金銭づくでではなく、ほかに大義名分があるという、自己弁解の余地をこしらえてやる。これもコツの一つだ。

「適当な値段ゆうたかて……」

できることなら、私だって適当な代金を支払いたい。山本富士子のハンケチのように。しかし、それはできない相談である。数百万はするという代物なのだ。私の懐中には、たったいま集金したばかりの、三万なにがしの金があるだけである。

「どないです？二万五千円で……」

女主人はしばらく考えてから、

「そやけど、父の形見やし……」

彼女の口ぶりから、私は有望だと思った。だが、もっと確実にするために、値上げを決意した、すこし焦っていたようだ。

「二万五千以上は出せまへん。そやけど、お父さんの形見ゆうことを考えて、もう五千足しまひよ。そいでこの……この絵もつけといて下さい。けつたいな絵やけど、それに五千払うたということにしまっさ。ねえ。どな

いのです？これがギリギリの線ですわ」
彼女は思い入れよろしく、息をついた。しかし、すでに陥落したのである。

「よろします」と彼女は言った。「日本の額ぶち工業のためでっさい」私は財布をとり出した。

女主人は弟にむかって、

「あの額ぶち、はずしてちょうだい」

「また仕事かいな。朝からこき使われてばっかりや」

「文句言いなさんな。そのかわり今日はお風呂焚いてあげますかな」

弟なる人物は、椅子にあがって額ぶちをはずした。

——「わあ、えらいホコリや！」

「裏できれいに拭いてきますわ。それから、紙に包んで、紐かけときましょ」

女主人は、私にむかって、そう言った。

「お願いします」と私は頭を下げた。

彼女が裏で、新聞紙で絵を蔽い、紐をかけてもつてくるまでのあいだが、なんとなくがく感じられたことか。私はそれを奪うようにして、受取った。喫茶店のそとへ出て私は興奮のあまり、なんども呟いた。——

「もうこっちのもんや」

タクシーに乗って、家に帰ったのは二十分後である。靴をぬぐのもどかしく、私は紐をといて、新聞紙をはずした。——ああ！

私はガクゼンと色を失った。絵はピサロではなかった似てもつかぬ売り絵の富士山だった。銭湯のペンキ絵クラスのげて物なのだ。

私はポケットから、かの喫茶店の宣伝マッチの箱をとり出した。電話番号は印刷されていた。私は大いそぎで電話にとびついた。

電話口に出てきたのは、さっきの女主人である。愛想のいい「モシ、モシ」の声で、すぐにわかった。

「小母はん」私は大声を出した。「絵がかわつとるや

ないか、絵が！」

「ホホホ」相手はあでやかに笑ったつもりである。

「あんなけつたいな絵やったら、お気に入りと思て昨日三千円で買った絵をつけときましてん。……いや、よろしおます、かめしまへん。とにかく、うちはサービス本位の店ですよって。それに、あの富士山、あの額ぶちのサイズに合わせて買ったんやもん。こんどは、もうちよつと小さな額ぶちにするつもりでっから。……かめしまへん、うちのサービスですねん。黙って、とつといとくれやす」

「さっきの絵はどないした！」私は電話器にむかってどなった。

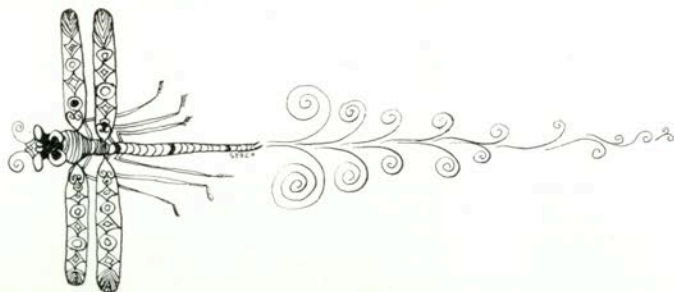
「風呂のタキツケにしましたがな。油絵やさかい、よく燃えましたわ」

私は電話器を床（ゆか）にとりおとした。ガチャン！そこは洋間で、電話台の下だけが、タイル張りになってる。音の加減からすると、どうやら、電話器にヒビがはいったらしい。しかし、私の胸は、もつと大きなヒビ割れがしていたのである。

目のまえのデスクのうえに、さっきのマッチ箱がのっていた。黒地に白抜きで、「サービス本位の店」と、大きく書いてある。

私はそのマッチ箱をつかむと、力まかせに壁に投げつけた

(この項おわり)



神戸と女性

岩下志麻さん松竹映画の若手女優No.1、天性の美貌に加えて、さいきんは演技にも丸味が出てきた見かけはおしとやかなお嬢さんですが、こと演技に関してはなかなかのファイター「どんな役でもどんどんこなしたい」と意欲的。お父さんは映画・TVで活躍の野々村黎さんです。

倍賞千恵子さんピチピチした若鮎といった感じです。SKD退団後松竹に入社、デビュー以来1年半の間に主演本数が17本。素直な演技とカンは第二のデコちゃんとして期待されています。さいきんキング・レコードから歌手としてデビュー「恋人なんか、めんどくさい」「下町の太陽」の2曲を吹き込んでいます。

撮影 米田定蔵

☆ 先月号の神戸っ子放談で山口泰弘、直木太一郎両氏の対談で「神戸っ子が心をついにして神戸を美しくしよう」というご意見がいま神戸の話題となっているようです——「神戸っ子」では早速、神戸を美しくするための座談会を企画、宮崎助役をゲストに迎え、神戸の経済人、文化人の実力者のご意見をまとめて見ました。いろいろ楽しい意見やすぐ始めたい運動がまとめられました、神戸がより美しい街になり、よりすぐれた街になるときに、はじめて「神戸っ子」も成長できるということでいつも前向きの姿勢を忘れないように努めたいと願っています、読者の皆様もぜひご協力下さい。

☆ 問わず語りにご執筆いただいている、司馬遼太郎氏は相変らず素晴らしい人気です。ちょうど今サンケイ新聞に明治維新の英雄、坂本竜馬をテーマに、猛暑と闘いながら書いていらつしやり、好評と絶讃をうけて益々快調です！

☆ 新らしく登場して、たちまち話題をあつめているのは「神戸うまいもん巡礼」。赤尾兜子氏は俳

人としても、現代俳句界のベテランであり指導者でもあります毎日新聞で発刊されてベスト・セラの記録をもっている「神戸うまいもん」も赤尾氏の労作でした「神戸っ子」での「神戸うまいもん巡礼」はその続編でもあり、改訂版でもあります。お見逃しなくご期待下さい。

☆ アツい、暑いKOBÉに、編集室はいささかバテ気味でした。涼風が立ち始め、食欲の秋が来れば、編集にも拍車がかかってきます。次号、乞ご期待!!。(小泉)

月刊「神戸っ子」案内

☆ 月刊「神戸っ子」を毎月御購読下さいます方、神戸を離れているお友達にプレゼントなさりたい方は編集室宛にお申込下さい。6ヶ月分・500円(送料共)

☆ 誌上紹介の各神戸の銘店にはお客様へのサービス品として「神戸っ子」がおかれています。「神戸っ子」をお求めのさいは左記の本屋さんでどうぞ。

文洋堂・国際会館1階
海文堂・元町3丁目
漢口堂・京町筋角
日東館・大丸前
流泉書房・センター街

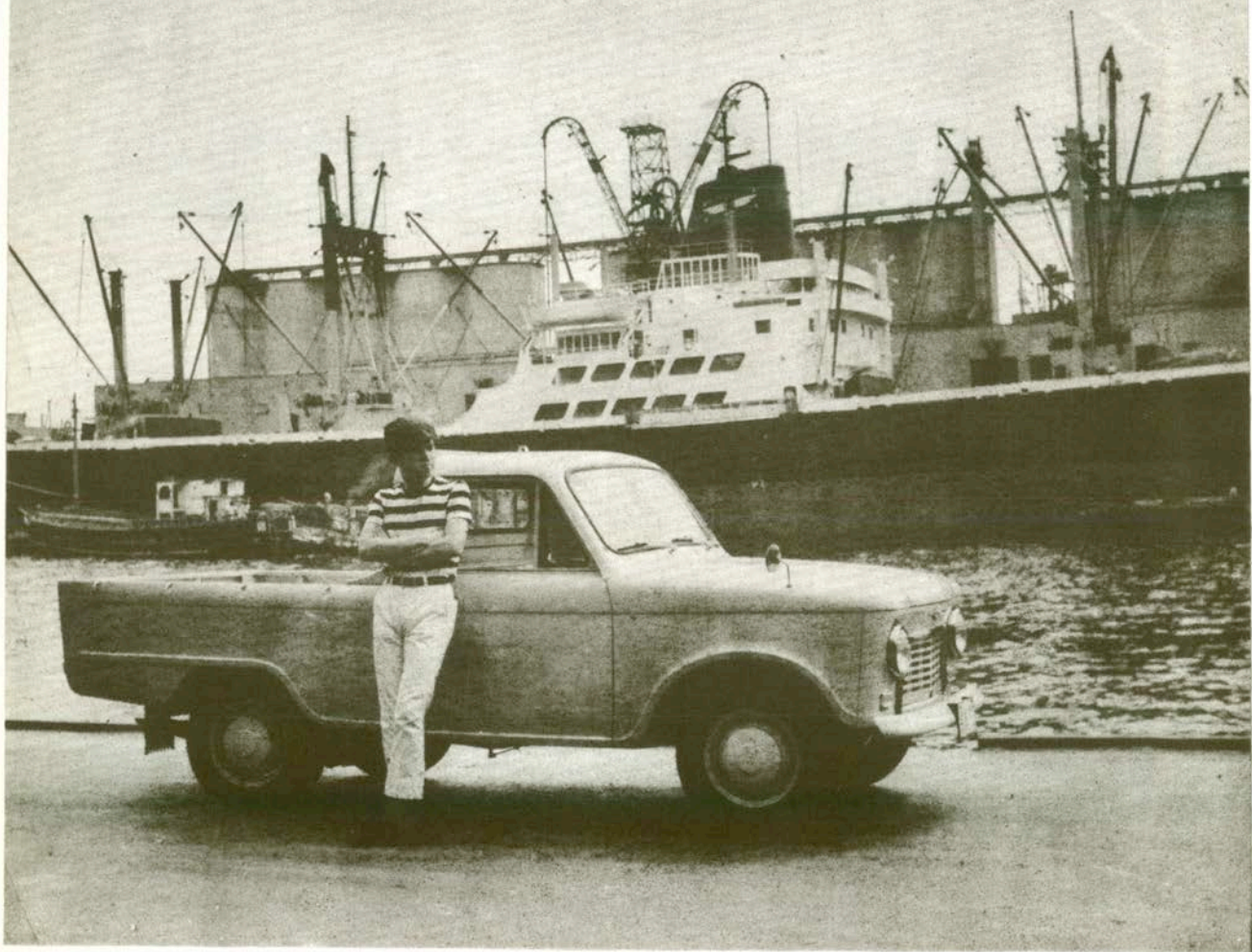
発行の色々と
お世談いただいた方々

山崎 百宮 松古 中森 永田 田嶋 白根 古林 久保 小久 小本 藤田 金大 小島 岡部 岡崎 牛橋 石野 芳本 文信 正夫
神戸 山口 杉輪 輪地 井川 富西 木井 中村 川崎 川本 林達 保林 南正 納西 井田 小島 根 眞 伊藤 子 眞 吉 正 成 重
弘 慧 三 雅 二 勇 夫 美 潤 七 郎 介 二 郎 理 勝 栄 二 郎 夫 平 繁 清 英 彦 トム 滋 一 朗 一 明

神戸青年会議所

- 本誌広告により広告主へ直接御注文やお問合せの際は「神戸っ子」広告による特別優待を下さいます。
- 広告主の住所不明な時は「神戸っ子」編集部にお問合せ下さい。お取次いたします。
- 「神戸っ子」への広告掲載御希望の向きは「神戸っ子」編集部御連絡下さい。 「神戸っ子」編集部

Hino ブリスカ 神戸日野モーター TEL ④5771~5



放送局を近づける

ナショナル超高度テレビ

毎月3,500円で

独特のゴールドペンゲート

真空管7DJ8₆が働き

感度は2倍！ 放送局から

遠く、電波の弱い地方

でも、画面のスミズミま

で実に鮮明な映像です。

さらに、ブラウン管や真

空管はナショナルだけの

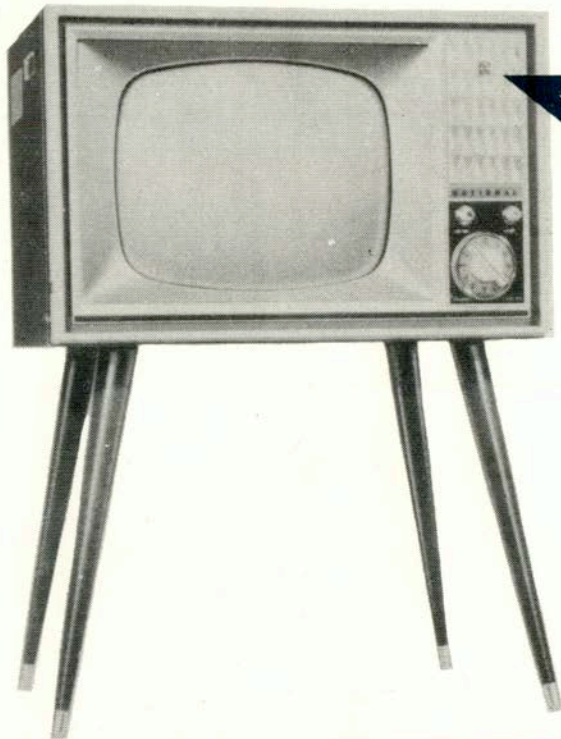
コイルヒーター設計で、

電圧や電流の変代にもビ

クともせず、寿命は2倍

故障知らずの性能で、い

ま話題を独占しています



14型 超高度 遠距離用 X 1

初回金 10,000円

月賦定価 48,500円

毎月 3,500円×11回



松下電器

あらゆるナショナル電化製品が「分割払い」でお求めいただけます。お近くのナショナル月賦販売店の看板の電器店で、ご相談ください……



月刊「神戸っ子」

発行所／神戸市真合区御幸通八丁目九ノ一
昭和三十七年九月一日 発行 毎月一回

神戸国際会館一階 編集／五十嵐恭子

TEL 2707037 発行／小泉康夫

頒価七〇円 (送料20円)